

## 吉川市協働事業評価シート\_2021.ver1.3

提出日	令和4年4月15日	
記入者	団体等名	吉川市自治連合会
	記入者名	高崎 康男
	部署名	吉川市市民参加推進課
	記入者名	鈴木 沙織

## 1 | 協働事業の概要

協働事業名	地域課題を地域で解決するための勉強会	
事業の実施者	団体等	吉川市自治連合会
	行政	吉川市市民参加推進課
事業の目的及び目標値	様々な地域課題の解決に向け、市民と行政との協働で研究を行い、活気と幸福実感あふれるまちを目指す。	
事業の内容	<p>①地域減災班②多文化共生班③自治会課題班の3つの分科会に分かれ、「地域課題を地域住民が解決するための事業」について研究・実施した。</p> <p>【令和3年度の取り組み】</p> <p>①地域減災班…「要支援者の対応」の報告書作成、「吉川減災〇×クイズ」の実施、 「中曽根小6自治会合同 減災プロジェクトX」の実施</p> <p>②多文化共生班…「多言語化した自治会加入促進チラシ」の作成、外国人住民に対し、自治会や生活の困りごと等に関するアンケートを実施</p> <p>③自治会課題班…「自治会の枠を超えた、新たな地域コミュニティ」組織のモデル地区として、「中曽根小学校区の6自治会」を選定し、組織(協議会)形成について議論</p>	
事業の実績 (実施回数、参加者数など)	<p>令和3年度実績(実施日、参加人数)</p> <p>①地域減災班…7/27(17名)、9/16(18名)、11/11(18名) 地域減災班(中曽根小6自治会)…4/15、5/19、6/22、7/26、8/31、10/26、11/27、12/16</p> <p>②多文化共生班…7/28(10名)、10/13(13名)</p> <p>③自治会課題班…6/14(8名)、8/3(11名)、10/11(11名)、11/29(9名)</p>	
協働事業決算	総額 266,974円 (うち市負担分 30,000円)	
	<p>【内訳】</p> <p>地域減災〇×クイズ印刷費:23,684円</p> <p>地域課題を地域で解決するための勉強会冊子作成費:213,290円</p> <p>講師謝礼:30,000円(市負担)</p>	
実施期間	令和3年4月1日 から 令和4年3月31日 まで	
協働の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助	

## 2 | 協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

「△」は、一部実施できなかった場合に選択してください。

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

### ①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

### ②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

### ③ふり返り段階

話し合いをした日： 令和4年4月14日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	<p>事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式）</p> <p><b>【団体⇒行政】</b>                      様々な地域課題を解決するために、自治会関係者だけではなく、困りごとがある当事者（外国人の方等）の話を直接聞く機会をどう増やしていくかが課題である。自治会の枠にとらわれず、多国籍・多世代の生の声を聞きながら議論することで、本当の意味で様々な立場の方に「吉川市に住んで良かった」と思ってもらえるまちづくりにつながると感じた。</p> <p><b>【行政⇒団体】</b>                      自治会の枠を超えた新たな地域コミュニティ組織の取り組みについて、全国的には広がりを見せているものの、当市においては事例がなく、地域の理解もまだ十分でない状況である。コロナ禍で地域のイベント自粛が続く、地域間の交流の場が減少している中で、新たな地域コミュニティ組織への理解をどう深めていくかが課題である。</p>		
6	<p>上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式）</p> <p style="text-align: right;"><b>記入者【 団体 ・ 行政 】</b></p> <p>年度末に勉強会の活動をまとめた冊子を作成・配布し、これまでの活動内容を周知した。次年度は、新たな視点で地域課題を捉え、分科会テーマを再設定したり、新たなメンバーを加える等、さらに活動内容を広げられるよう、引き続き検討していく。</p>		